

山岳クラブ／グーテンターク(ドイツ語 こんにちは)

# 月報 やまふみ

No.210 2013年 7月7日発行 山踏み

会 長 /MT

事務局長 /TK

振込口座 /山岳クラブ グーテンターク 八十二銀行長野駅前支店 (普)401641

ホームページ/<http://guten-nagano.com/>

編 集 /ST UU KK

印 刷 /中央プリント(株)



## 目 次

山行報告 .....	1~7
編集後記 .....	9

## 5月26日(日) 富士山 スキー

メンバー T島 M井

行程:6:25 1990m5 合目駐車場→ 7:40 2390m シール登行開始 →10:10 3000m アイゼン登行  
→13:00 3648m 山頂着 →13:20 滑降開始 →15:10 駐車場着

ここ数年の毎年恒例の富士山山スキー。このスキーで、今シーズンのスキーが終了する。今年の参加者は2人だけで寂しいが、毎回同行している唯一のスキー仲間なので、ペースもほぼ一緒に、いつもと変わらない山行かもしれない。前夜泊で、須走りの道の駅に行く。到着時刻は21時前であり、当然富士山は見えない。ちょっとビールを飲んで10時過ぎに就寝する。



AM5時に起床する。天気が心配で、まずは富士山が見えるか確認。富士山は見えるが、雪がない！雪がないというのは大げさかもしれないが、頂上は真っ黒であり、所々尾根沿いのスジも黒い。去年は真っ白だった。ん～これは予想以上に苦難を強いられるかな…と思い、モチベーションが一気に下がる。それでも行けるところまで行くのみで、須走りの5合目に向かう。5合目でさっさと支度を済ませ

る。昨年、5合目の標高(1990m)から おおよそ 2300mまでは雪がなかったので、1時間近くをあの火山灰の中を歩く為、反省をいかし、兼用靴は担ぎ、運動靴で登る。荷物だけで、15kg 近くあるのではないかと思う。かなり重くつらいが、後に下山には大正解であることを知る。約1時間歩いて、標高 2400mで雪が先につながっていることを確認し、スキーを装着。ようやく重い荷物を下ろすことができ、火山灰で足が埋まることもなく、快適な登りが始まる。約 2 時間強歩き、3000m地点で、徐々に斜度がきつくなり、アイゼン登行となる。再び板を担ぐが、兼用靴とアイゼンは体に身につけているので、全てを背負っている時より軽く、楽であった。3000mを超したあたりから、少し息があがってくるのを感じる。この3000mを通過したの



が10時過ぎであり、3600mの頂上に到着したのが、13時頃であったことから、200m上がるのに約 1 時間かかっていることから、ペースはかなりダウンしている。そして、なぜか眠くなる。軽い頭痛もしてくる。M 氏もペースが上がらないようであり、100m程下を歩いている。去年はこんなにきつかった記憶がなかった。ちょいちょい水補給だけの休憩をし、『はあはあ』言いながら登る。頂上には雪がないので、このまま板を担いでいくのも馬鹿らしく、頂上より 50m程下がった滑降地点に板をデポし、残りの 50m 程をのぼり、13:00に到着した。天気はというと、ガスの中で、景色は何もみえない。しかし、気温は高く、寒さを感じない。M 氏は、頭痛がひどく、体調がかなり悪い様子である。軽い高山病にかかっているのであろう。既に13:00であり、簡単にエネルギー補給をし、下山する。板をデポしているところまで歩き、そこから滑降。雪質は凍ってなく、程よいザラメである。やはり、7、8ターンで、太ももがプルプルしてきて、休憩

連続して滑るのは大変だ。しかし、あれだけしんどい思いをし、時間をかけて登った標高差を、滑れば数分。もったいないな～。快適な滑りも 3000mちよつと下あたりまでで、徐々に雪が重くなり、次に雪が少ないのであちこち凸凹となり、さらに火山灰が入り混じった雪となり、雪のコンディションは最悪となる。5合目駐車場がガスで見えないため、こまめに方向を確認し滑り降りる。2300m 地点で再び、兼用靴から運動靴へ履き替え、担ぐ。火山灰で、運動靴や靴下は真っ黒である。最後の 1 時間がきつい。途中で、兼用靴で歩いているスキーヤーを抜く。彼らは兼用靴の為に足が痛いらしく、後ろ向きやら、恐る恐るステップを踏んで歩いていた。私達の運動靴を見て、『靴は履きかえるのか』とつぶやいていた。昨年、兼用靴で1時間近くを歩き、激痛であったことを思い出した。そして15時過ぎに駐車場に到着し、今シーズンのスキーは閉幕した。そして昨年と同じ、『紅富士の湯』で汗と疲労をとり、M 氏の頭痛もとれたようである。

<余談>

今年の方がきつく、ペースダウンしたよう気がしたので、昨年と今年のコースタイムを検討した。今年の方が頂上までに1時間多く時間を要した。が、雪の少なさと、途中でのデポ時間等を考慮すると、さほど変わらないことがわかった。

昨年記録:5:30 出発→11:00 到着 12:15 滑降→14:00 駐車場

T 島記

## 5月25(土)～26日(日) 北アノ北ノ俣岳スキー(個人山行)

S 木、非会員1名

5/25(晴れのちくもり) 飛越トンネルP 発8:40ー寺地山13:45着

5/26(晴れ) 寺地山6:00—避難小屋付近6:45～55—稜線着9:25—北ノ俣山頂9:50滑降開始10:25  
—赤木平発11:00—稜線11:40～12:00—池塘群12:35～45—寺地山13:40～50—P 着17:20

10年程前の同じ時期に同じコースを歩き、稜線から黒部側の赤木平への真っ白なスロープを見て、「今度はスキーで来て滑りたい！」と思ったものだ。問題は、重荷でスキーを滑れるか？であった。GWに尾瀬にテント泊でスキーして、担ぐ覚悟で行ってもいいかなという気になった。

当初は前の週のつもりだったけど、予報が悪かった為延期。時期的にギリギリな気がした。飛越トンネル手前の登山口より、スキーをザックに取り付け出発。登りだしてすぐ、スキー靴が脛が当たって激しく痛み、踏ん張りがきかない。雪のない登山道をスキー靴で登ることは思った以上に大変だった。痛くないようあれこれ調整して少しはマシになったがあとは我慢。こんなでは、上に着く頃には痛くて滑れないのでは…。辺りは萌木の季節。コブシやミネザクラ、足元には可愛いショウジョウバカマやミツバオウレン…などあったと思うが、



あまり楽しむ余裕なし。スキーの付いたテント泊のザックは重く、2～30分毎に一本とる。残雪を踏むようになって、やっと少し足が当らなくなって楽に。打保からの神岡新道との分岐手前でようやくシール歩行が出来るようになり、荷が軽くなって格段に楽に。しかし寺地山の登りでは波打った急な登りでシール歩行は難しくなり、山頂までわずかの登りはまた担ぐ。寺地山に到着。目の前にど～んと北ノ俣が眺められ、その左に薬師、遠く劔に大日、手前に鋸崎山、そして右には黒部五郎から笠。計画では避難小屋付近にテントを張るつもりだったけど、帰りにまた重荷を背負ってここまで登るのが嫌だしわざわざ行くことないや、と

ということでここに泊まることとする。途中の直下に雪解け水が流れていたの、水は作らないで済んだ。

翌朝、小屋までは滑るのは不向き(稜線が狭かったり、波打っていたり、アップダウンもあつたり)なので、スキーはザックに付けて出発。小屋は北ノ俣の取付き付近だったはずだが、見えなかった。ここでスキーを履いてシールで登り始める。薄いスキーのトレースが1本。今朝のものではなさそう。先行者は昨夜は小屋より先に行ったようだ。雪解けが進んで夏道が結構でていて、その左側の斜面を登っていくが、この上部は果たしてちゃんと藪漕ぎなく稜線に出られるのか？結局藪漕ぎが嫌で稜線直下は夏道を登ったが、やはりスキー靴では歩くのつらかった。(結果的には藪漕ぎなく稜線に出られたと、後で判明)

稜線に出ると、黒部源流域の大パノラマが広がった。見慣れた地域ではあるけど、やはり残雪をまとった姿は格別だなあ。北ノ俣山頂へ行き、いよいよそこから赤木平へと滑降。これがやりたくて苦勞してスキーで来たのだ。うん、薬師や雲の平や水晶から槍～笠まで眺めながらの広いバーンは最高～！でも赤木平はあつという間だ。時間もないのでさっさと登り返さないと。せつかなのに残念～。もう1本滑りたかった。稜線に戻り、先ほどの夏道分岐より少し下がったところからギリギリ這松漕ぎしなくても斜面に下りれる場所を見つける。そこから寺地山に向け滑降。さっきより急ではあるが、適度なザラメで快適なバーンだった。雪解けした途中の池塘群で少し時間を過ごす。このコース中最も素敵で天上の樂園と言ったところで、もう出ていたとは。緩やかな斜面でシーズン最後の滑降を終わり、寺地山へ登り返す。



テントを撤収し、スキーをザックにつけ、下山。波打つ急斜面が終わったかなと緩斜面をスキーで滑って少しは快適だったが、昨日登ってきた時よりも更に雪解けが進み、ぬかるんだ夏道が早くも出てきて、結局スキーはまたザックに取り付けて、スキー靴で夏道を歩くことになる。その道は惨憺たるもの。乾いた夏道になるまで長くぬかるみが続く。まだ1シーズン目のスキー靴は泥にまみれ、石や木の根にぶつけて傷だらけ。ああ、古い方の靴で来るんだと後悔。脛が痛くて速く歩けず。下山が大幅にコースタイムより長くかかるなんて私には有るまじきことでした！ やっぱリテン泊スキーはキビシイ！ 上でイイ思いをしたけど、暫くはもういいかな…。

S 木 記

## 6月9日(日) 沢登り講習会 ナメラ沢

CL S谷 T井 H岡 F部 K山 H本

行程 8:15 駐車地点ー9:30 ナメラ沢入渓ー12:00 二股ー14:45 駐車地点

天気 快晴

沢登り講習会として奥秩父笛吹川流域のナメラ沢に行ってきました。

週間天気予報では“曇時々晴”でしたが当日は“快晴”の天気、最高のコンディションの中で沢登り講習会を受けることができました。

雁坂峠料金所手前の駐車場に午前8時に集合、まずは 20 分ほど林道を歩きます。林道終点地点で沢登り道具を装備して登山道を 10 分ほど登ると、ナメラ沢への降下地点です。

到着したナメラ沢は名前どおりの綺麗なナメ滝が続く沢でした。時々ひざ上まで水につかりながら水の中をじゃぶじゃぶと歩いていきます。涼しくて気持ちがいいです。

しかしナメ滝は予想以上にすべります。特に水際の苔が生えた部分はずるずるでフリクションが全く効きません。一步一步慎重に歩を進めます。歩き方については、これから沢登りの経験をつむことによって技術を向上させていかなければいけません。

20 分ほど遡行すると最大の難関 5m の滝が姿を現しました。ここは杉谷さんにおたすけ紐を出してもらい、左岸の壁を登りました。入渓して約1時間、中ノ沢との出会いで一旦休憩したあと先に進みますが、ここでアクシデント。ナメラ沢は左へ入っていきますが、そのまま中ノ沢を 50m ほど直進してしまいました。すぐに気づいて引き返すことができたのでよかったです。快晴の空とまぶしい新緑、そして綺麗な渓谷が続くので、登っていて全然飽きません。次はどんな様子を見せてくれるんだろうかとワクワクしながら遡行していきます。





行動開始から3時間45分  
二股に到着しますが、ナメラ沢の本流は  
ひどい倒木帯になっていました。時間的  
にもこれから稜線まで出て下山となると  
時間が遅くなることもあり、今日はここま  
での遡行としました。

ここで昼食休憩をとって下山にかかり  
ます。登りはガンガン登っていたので  
すが、下りになると一気に難易度があが  
ります。とにかく滑りやすいので登り以  
上に慎重に一步一步下って行きます。

基本は水中は避けて、巻き道がある  
場所は巻き道を通って下って行きます。  
それでも危険なところはS谷さんにおた

すけ紐を出してもらい懸垂下降で下りました。岩登り講習会で習った技術が役に立ちました。

行動開始から6時間30分。無事に駐車場に戻り、笛吹の湯で汗を流して帰路につきました。

初めての沢登りでしたがS谷CL、T井さんのサポートのおかげで楽しい沢登りになりました。これから技  
術を磨いてさらにいろいろな沢にチャレンジしてみたいです。

## 6月5日(水) 青田南葉山 (個人山行)

F本

自宅 8:30→8:50 登山口(キャンプ場)9:00 →11:00 南葉山山頂 11:30 →12:30 登山口(キャンプ場)



シラネアオイ



毎朝、仰ぎ見て何時  
でも登れると思っていま  
ましたが、初めて南葉山  
へ足慣らしに登って来ま  
した。明神沢コースに登  
りにしたが、ところどころ  
浸食して道が崩れたとこ  
ろがあり、8合目あたり

は残雪もかなりありましたが、赤いスプレーの丸印があちこちにあり、道に迷うこともない。それよりも、サ  
ンカヨウ・シラネアオイ・イワカガミ・ショウジョウバカマ・ツマトリソウそしてまだ咲いていたカタクリと5合目  
付近から 花・花・花のオンパレードで、興奮して足慣らしなんか忘れてしまった。8合目付近からの北尾  
根はブナ林の中を登りとても気持ちがよく、残雪の山頂では、50代の夫婦と20代の若者二人と一緒に  
なり、話がはずんで楽しかった。山頂からの火打山の全容・高度感は圧倒的で、いつも麓から見るとは全  
く違った。下りに使った木落坂コース(一般コース)は、案内板や登山道が整備されているが、登山道が粘  
土質で雨の後などは、すべりやすいので注意が必要。また、ショウジョウバカマ・イワカガミくらいで、花  
が少なく残念だった。

## 6月12日（水）大城（個人山行）

U木 Y本

オリスト6:00—登山口 7:10—はぎの尾峠08:00—頂上8:30—東屋 9:20—林道経由して 登山口 11:00—オリスト 12:00

前日の予報が急に雨予報になりやばいと思い朝早く起きて再度予報をみる。

天気予報では生坂村は9時から雨なので相談の結果予定どおり早起きして行くことにした。はぎの尾峠からだ伊部さんによると1時間50分だが1時間20分で頂上に着いてしまった。コースタイムがかなりゆっくりのようだ。頂上の展望はよくない。雪の被った山がみえるが半分は雲に覆われていてどの山かさっぱり分からない。頂上周辺ではすでに9時になっているが雨が降る気配がなくそれどころか日がさしてきたので帰りは周回して眠り峠経由でくだることにした。そのうえ途中の看板だと林道経由だと

展望が良いとあったのでそれを真に受けて林道に入る。驚いたことに最近新装らしくすばらしい舗装された林道をてくてく歩いたが展望はさっぱりであった。アスファルトを歩いて足が痛くなっただけであった。伊部さんにはないが林道を使うと大城から京倉への縦走もかなり楽そうだ。お昼前に帰ったのでばばに驚かれた。「もう帰ったの？」帰宅したら猛烈に眠かった。今日はイマイチだった。

U木記



## 6月17日（月）鼻曲山（個人山行）

U木 Y本

駐車場 7:45 剣の峰等との分岐 8:35 鼻曲峠 10:05 10:25 鼻曲山 10:45 11:00 鼻曲峠  
12:05 剣の峰等との分岐 12:20 12:55 駐車場

前夜「6月17日から1泊2日で行く予定だった山域の天気予報が芳しく無い、2案の鼻曲山に変更。」

とリーダから連絡有り。時間が比較的自由になるシニア組の特権。

17日朝佐久地域を過ぎて碓氷峠に入ると霧が濃くなり、速度制限の表示。松井田妙義 IC を降りて霧積温泉に向かうが雲が低く垂れ込め、晴れマークだった天気予報とは大違い。

昭和最後の日にプレーをした思い出のゴルフ場の分岐を過ぎて更に山奥に進むが、霧が更に濃くなり遂にフロントガラスに小さな雨粒の痕。駐車場に近づくと路面が濡れ、雨上がりの様相。

雨露を避けるためスパッツを付けて出発。高温、高湿度のため蒸し風呂状態、標高が上がった剣の峰等との分岐辺りでやっと緩和。蝉と時々聞こえるツツドリ、ホトギス等の声に包まれた展望無しの樹林帯を黙々歩行。途中所々に花が見られるが、シーズンを逸したためか少。剣の峰等の分岐を過ぎるとササ丈が高くなり膝上までの濡れ。鼻曲峠から山頂まで距離は短いが最後急登に難儀。



山頂に着くも垂れ込めた雲により眺望無し、行動食を採った後早々に下山。途中足下に 2 株の小さな花を発見し同行者に先行を依頼、ザックからカメラを取り出し撮影。初めて見た準絶滅危惧種のカモメラン、家に帰ってインターネットで調べてもこの容姿がベストと自己満足。



## 編集後記

最近テレビで屋久杉の樹齢2000年になる木の切り株の話を知って驚いた。この木の薄い断面の年輪を一年ごとに炭素の量を若き美しい女性研究者が5年間コツコツと調べたところ西暦775年のところで異常高くなっていることを大発見した。なんとこの年に空に十字架がおりてきたという文献もある。ともかく異常に宇宙線の量がこの年多かったことになる。原因はいろいろ想像されるらしい。一つは宇宙の果てで大爆発が起こったかも。もし今同じことが起きたら電気異常で世界各地でパニックがおこるそうだ。1400年まえのことが木の年輪からわかるなんてすごい。

佐久の名山 茂来山を登ると途中に林野庁が選んだ100木のひとつの「トチ太郎」樹齢200年に出会う。ちょっと厳粛な気持ちになる。お前もそんな記録があるのか尋ねたくなった。 /ゾラ

北ノ俣へ行った夜、テントで息苦しくて目を覚ます。鼻が詰まっているせいかなと思ったけど、夫も苦しいと言う。急いで換気。吹流しを閉めていたのがいけなかった？今回テントを新調したのだけど、それくらいでこうなるの～？それも透湿性のテントなのに？換気して楽になったけど、翌朝、炊事でライターが全く点かない。外に出したら普通に点いたということは…コワイ～。 /とっこ

最近くるまを買い替えようと思ってくるま屋さん巡りをしている。現在の MOVE は 10 年以上経過し距離も 12 万キロを超えいろいろガタがきだしている。まず、また軽にしようか普通車にしようかで迷って、次に新車にしようかまた中古にしようかで迷っている。大きい買い物だけになかなか簡単に決められない。でも何とかこの夏中に決めないと！あ～でもどうしよう、それぞれ一長一短なんだよな～、なやむ～！ /カタカナ